

子どもたちの未来を 市民みんなの力で

新しい時代に対応して、「生きる力」の育成を基本とし、学校は、教師が教えこむ教育から、子どもが自ら学び、自ら考える教育へと転換します。
また、子ども一人ひとりのよさを見だし、それを伸ばす教育を行います。

ことしは、県の教育改革の具体的なスタートの年といわれています。それでは、南国市の教育はこれからどうなっていくのでしょうか。西森教育長に聞いてみました。

「今、南国市の子どもは」

毎朝「おはようございます」と元気よく笑顔であいさつをして登校していく子どもたちに出会います。この子どもたちが将来の南国市を支えてくれるのかと思うと、期待感いっぱいになります。すべての子どもたちには限りない可能性があり、その可能性を伸ばしてやるのは、私たち、大人の責任ですね。



西森善郎教育長

「南国市の教育のキーワードは」

地域とともに築く教育です。つまり、子どものことをみんな考えて、みんなが育てていこうということです。

「南国市のめざす教育構想は」

南国市らしい特色ある学校づくりをめざします。例えば、北陵中学校区では、地域の史跡や豊かな自然を生かして、ふるさと文化教育を進めます。

香ヶ池中学校区では、人権学習に重点をおいて「生き抜く力」の基本となる学力と進路の保障に向けて取り組みます。

香南中学校区では、五か園の子どもが日本の子どもたちと一緒に勉強をしています。このような状況はこれからもますます多くなると考え

ます。そこで、世界にも目を向けた国際理解教育を進めます。
香長中学校区ではスポーツ面で県下的に活躍している香長中学校を中心として、スポーツ・健康教育の推進を考えています。

「ことしの主な取り組みは」

小学校の給食に、南国市の筑岩・上倉・久礼田地域の中山間とれたお米を使います。きれいな水と減農薬で作られたお米は、子どもにとって健康的であるばかりでなく、生産者の顔が見えて、感謝の心が育つことを期待しています。

「その他に、何か」

子どもが授業を評価する方法も取り入れられます。
南国市の四つの中学校に、アメリカ人の英語指導助手(A.L.T.)を配置します。九月からは毎日それぞれの中学校で勤務にあたります。これは、全国的にも大変珍しく、その成果が目まぐるしく、そして、中学生のみでなく小学生とも交流を行っています。また、南国市の市民として地域で生活しますので、外国の人と自然にふれあう機会も多くなり、国際感覚の豊かな子どもも育てることが期待できます。



これまで授業の評価は先生が行ってききましたが、これからはそれだけでなく「楽しく、分かる授業」をめざして、子どもの意見を授業に生かします。

また、小学校・中学校・高等学校の連携を進めます。スポーツや音楽などの活動とおして、小学生・中学生・高校生の交流をします。また、体験的な活動でも連携していきます。そして、県の支援を受けて、開かれた学校づくりを進めます。学校の運営に、子どもや親の意見をたかします。また、地域の人の力を学校の中に活用したり、学校の施設を地域に開放して、子ども・保護者・地域に開かれた学校づくりを進めます。

「なぜ「地域教育」なのでしょう」

近年、少子化や核家族化が進み、従来、家族や地域が果たしていた教育力の低下が危惧されています。学校では教育課程の編成・実施・評価改善など、やるべきことが山積みしています。

情報化、国際化、高度技術化しつつある社会の中で、たくましく心豊かな子どもを育てるためには、もはや学校のみが教育の場所でなくなるといえましよう。そこで学校と家庭・地域社会がそれぞれに役割を分担し、手をたぐさえて子どもの教育を行っていくことが重要になってくるのです。



▼ お茶摘み体験

▲ 田植え体験

後免野田小学校と農業高校との交流



「地域教育指導主事の仕事」

「こんにちは、地域教育指導主事の池田です」とあいさつをする中、「え、それ何の？」と「こんにちは」を返すという言葉が必ず返ってきます。

「土佐の教育改革を考える会」の提案を受けて、学校・家庭・地域の連携により子どもを育む力を高めようと、県教育委員会がことしから行っている事業で全国でも初めての試みだからです。



お気持二 お声をおかけください

「具体的な取り組み」

- ①南国市の教育課題を把握し、解決に向けて具体的な取り組みを行います。
- ②「南国市地域教育推進協議会」を設け、いろいろな人の意見を聞いて、

南国市のよさが見える事業を行います。

③各学校に「開かれた学校づくり推進委員会」を設け、学校運営に子どもや保護者が参画できるように進めます。

今のところ、もっぱら地域の状況を「知る」と、仕事の内容を分かってもらうために、学校を訪問したり、地域でのさまざまな行事に参加させていたでています。

今まで、市内の中学校で「先生、聞いて」という生徒たちの思いを大切にしながら、英語教諭として勤めてきま

した。この二十五年の間に子どもの様子はずいぶん変わりました。

今、まさに学校と家庭・地域のあり方「連携」が問われていると思います。

うちの子ども、よその子ども、地域の子ども、子どもは地域の宝です。南国市で生まれ育つことに、喜びと誇りが持てるような子どもに、みんなで育てていきたいと思っています。子どもの話題や悩み、ご意見などを寄せてください。

市教育委員会学校教育課

△池田千恵子